

# ドキュメンタリー映画 「超自然の大地」 制作のこれまでと、これから。

監督 梶野 純子 & エド・コジアスキー

2011年3月 東日本大震災にともなう、福島原子力発電所事故

4月 アメリカにて一般の方々から「超自然の大地」制作費を募る。

5月～日本へ渡り、そのまま福島へ。この時点では、福島県東白川郡の有機農家（四季彩菜工房）一軒を知るのみ。その農家さん宅へ農業を手伝いながら滞在／撮影。

ここを拠点に、四季彩菜工房の農家さんと、撮影と放射線量を測りに福島県中を周り始める。福島県の南西部では、この当時ほとんどの方々がガイガーカウンターを所持していなく、私たちが行くと「測ってください」と頼まれ。後に測定を電話で受け付けるようになり、撮影が線量測定に変わって行った。

7月～福島市移動 福島仲通り撮影中に会った福島市のパン屋さんの計らいで、開いているアパートに滞在させてもらえるようになる。撮影は福島市、南相馬市、二本松市に、集中し始める。

8月～福島県有機農業ネットワークさんと出会い、そこに所属する多数の有機農家さん達の汚染への取り組み方法を撮影し始める。福島市、二本松市、南相馬市の農家さん達の状況は、汚染度、農業継続、避難する、しないなどの問題を含めとても深刻。11月上旬の稲刈り／収穫までを撮影し続ける。

11月～アメリカ帰国。一年目の撮影を終え、シカゴへ。編集開始。

2012年2月 シカゴにて制作継続、福島帰還のための資金集め。

3月～6月福島帰還 二本松市滞在。2年目の撮影突入。福島市、二本松市、南相馬市、東白川郡、会津地方、全てを撮影。

1年目の農作物の汚染状況と土壌の浄化への新しい展開、方策に取り組む農家さん達。また同時に、そこで収穫された農作物を販売して行く体制を模索する方々の姿を撮影。

ホールボディーカウンター、食品測定機が広く導入され始める。

多くの研究者が福島へ。農家と協力し、土壌と農作物の汚染を研究。

7月～アメリカ帰国 計200時間以上の映像の翻訳と編集作業開始

継続して、制作費を一般の方々から募り、同時に米国のドキュメンタリー資金ファンドへ応募し始める。

2013年 7月 3年目の福島撮影に福島へ。

## 今後の完成までの編集作業と必要資金

シカゴ市芸術家資金ファンド、イリノイアートファンドより、基金助成を受理。

2011年からこれまでに一般の方々からの寄付と助成金により、約360万収集、現時点での制作経費870万円。

3年目の撮影を8月6日に終え、米国へ帰還。更なる編集作業とオリジナル音楽制作を予定。完成までの残り必要資金500万円。

完成後

各国際映画祭応募、全米ブロードキャストでの放映交渉、そして本編に入らない映像を短編としてホームページへ上げて行き、継続した映像による発信を英語圏でも実行して行く。

寄付、また支援や上映を通じての応援に関する連絡先  
郵便局口座 ジュンコ カジノ 17060 6493451 [junkokajinojp@yahoo.co.jp](mailto:junkokajinojp@yahoo.co.jp)

